



1 前田治さんを囲んで説明を受ける。児童の目は真剣そのもの。2 ボールを真上に投げ、身体を1回転させてからキャッチ。思ったより難しく、落としてしまう子が続出。3 2人1組となり背中合わせで素早くボールを受け渡す。お互いの息が合わないとうまくいかない。4 最後は前田さんも加わって試合。子どもたちも前田さんも、キラキラした目でボールを追いかけけている。5 前田さんの豪快なシュートに目を奪われる子どもたち。「すごい!」と歓声が。



1

決して無理と思わないこと
できないって言わないこと

チャレンジ



みんな夢はありますか？

前田さんは講演の冒頭、子どもたちに将来の夢や、なりた職業があるか尋ねた。

「僕の小さいころは、野球が全盛期。実は僕も、将来はプロ野球選手になりたいと思っていたんです。特に王貞治選手にあこがれていて、いつかあんなホームランバッターになりたいなあと夢みていました」。

プロのサッカー選手の夢が野球選手？子どもたちからは一様に驚きの声が上がった。

「野球が好きでずっと続けていきましたが、小学4年生のとき、地域のサッカークラブに誘われました。それからは、平日はサッカー、週末は野球という生活スタイルに。野球はある程度得意だったけれど、サッカーは何もかも初めての経験でした。ドリブルやシュートなど、一つ一つのプレイができるように

は挑戦を繰り返した。体育館には子どもたちの声と、ボールが弾む音が響いた。

教室の最後は、学年対抗でサッカーの試合。1年生から順に、男女に分かれて5分間の試合を実施した。前田さんは女子チームに参戦。試合開始の笛の音を合図に、みんな夢中になってサッカーを楽しんだ。前田さんも子どもたちと一緒にボールを追いかけつづけた。ドリブル突破や子どもたちの頭上を越してのループシュートなど、随所にプロの技を見せる。というよりも、前田さんもむきになって追いかける。ボールを捕られたらすぐに取り返しに行く。これはたぶん「大人げない」のではない。子どもと同じ目線にいるからなのだ。変に大人ぶらずに、子どもと一緒に必死にボールを追いかける前田さんの姿。子どもたちはそんな前田さんの姿が一番うれしかっただろうし、その背中に学ぶこともたくさんあっただろう。全試合終了後、子どもたちにも、前田さんの額にもさわやかな汗が光っていた。真剣に楽しんだことを物語っていた。

夢はずっと続いている

閉会式ではたくさんの子どものが前田さんに対して、心からの

子どもたちに、スポーツの楽しさや魅力を伝えるために開かれるトップアスリート派遣事業（日本体育協会主催）。本年度は7月8日、中央小を会場に、元Jリーガー前田治さんを招いて開かれた。教室の前半は、前田さんによる講演会。後半は体育館で、実際にボールに触れながら、サッカーの楽しさなどを学んだ。笑顔があふれ歓声が響いた半日に密着した。



前田治（まえだおさむ）
横浜市在住の元プロサッカー選手。選手時代はJリーグ横浜フリューゲルスに在籍し、エースストライカーとして活躍。引退後はクラブチームの監督やテレビの解説者などを務めるかたわら、全国で子どもたちを対象としたサッカー教室を開催。スポーツの楽しさや魅力を伝える活動をしている。

なってくると思うけれど、次第にサッカーにのめりこみ、ずっと続けたいと思うようになってたんです」。

前田さんは続ける。「みんな、夢はたくさんあっていい。僕は子どものころ、野球選手にも、サッカー選手にもなりたかった。パイロットになりたいと思っただきもある。夢をたくさん持つことは恥ずかしいことじゃありません。ぜひ自分が夢中になれることを見つけてください。スポーツでも勉強でもいい。みんなが好きなテレビゲームと同じです。一つ一つのことができるようになる。クリアして次に進める。その喜びが『夢中になる』『夢を持つ』につながるんです」。

子どもたちは前田さんの言葉に必死で耳を傾けている。

「みんなが大きくなると、気付くことがあります。それは感謝する心。何でもそうですが、自分一人の力じゃできないって

お礼と感想を述べた。

前田さんは最後に、夢にはずっと続きがあると話した。

「一つ目標を達成することに新たな目標が生まれます。だからずっと夢を見続けることができます。僕はサッカーを続けてきたから、たくさん夢を出てきたから、たくさん夢を出てきたから、今日ここでみんなと出会うこともできた。一緒に楽しくサッカーをやれた。続けてきて本当に良かったなあと考えた瞬間でした。みんなもぜひ、自分の夢を見つけて、チャレンジしましょう。毎日少しずつ努力を積み重ねていきましょう。またみんなと会える日を楽しみにしています」と子どもたちに語りかけて教室を締めくくった。

前田さんの言葉が心に響いたのは子どもたちだけじゃない。そこにいた先生たちも、見学に来ていた地域の大人たちも、前田さんの言葉に真剣な表情でうなずいていた。

夢をたくさん持つことの大切さを教えてくれた。前田先生、ありがとう

中央小5年 蘭田紳一路くん

前田先生は、夢をたくさん持つことの大切さを教えてくれました。ぼくは将来イチロー選手のように、ヒットをたくさん打てる選手になりたいです。目標は、ライバルのチームに勝てるようになること。これからもずっと、野球を続けて頑張っていきたいです。



5

Challenger